

Daily Report (号外)

～FOMCの結果について～

概要

米連邦準備制度理事会(FRB)は、9月15-16日の米連邦公開市場委員会(FOMC)において、フェデラルファンド金利(FF金利)の誘導目標を0～0.25%に据え置きました。また、新型コロナウイルスの感染拡大からの景気回復を支援するため、少なくとも2023年まではゼロ付近の政策金利を維持することを示唆しました。

声明文では、フォワードガイダンスの強化が行われ、「委員会が判断する最大限の雇用水準と労働市場の環境が整合的になるまで、またインフレが2%に上昇し、一定期間2%を適度に超える軌道に乗るまで、現在のゼロ付近の政策金利を続ける」との文言が追加されました。政策決定は賛成8名、反対2名で、反対票を投じたのはダラス連銀のカプラン総裁とミネアポリス連銀のカシュカリ総裁でした。カプラン総裁は、「政策金利のより大きな柔軟性」の保持が望ましいと主張する一方で、カシュカリ総裁は、「コアインフレが持続的な形で2%に達するまで利上げを待つ」と示すべきだと表明しました。

FOMC参加者の経済見通し(中央値ベース)については、2020年の実質成長率見通しが前回(6月)の前年比▲6.5%から▲3.7%に、インフレ見通しが前回の+0.8%から+1.2%へそれぞれ引き上げられ、失業率は9.3%から7.6%へ引き下げられました。FF金利予測(ドットチャート)については、中央値で2023年まで現状維持となる0.125%が示されましたが、2022年は17名中1名、23年は4名のメンバーが利上げを予想しています。

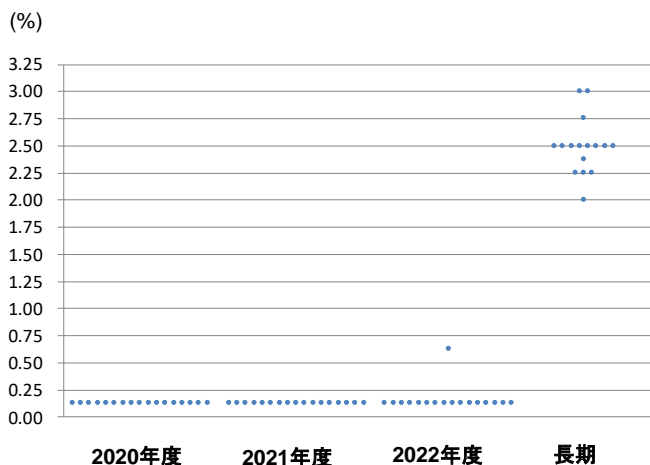
図表1 FOMC参加者の経済見通し
(中央値ベース)

	2020年	2021年	2022年	長期見通し
GDP成長率	-3.7%	4.0%	3.0%	1.9%
(前回12月)	-6.5%	5.0%	3.5%	1.8%
失業率	7.6%	5.5%	4.6%	4.1%
(前回12月)	9.3%	6.5%	5.5%	4.1%
PCEデフレーター	1.2%	1.7%	1.8%	2.0%
(前回12月)	0.8%	1.6%	1.7%	2.0%
コアPCEデフレーター	1.5%	1.7%	1.8%	-
(前回12月)	1.0%	1.5%	1.7%	-
FFレート	0.125%	0.125%	0.125%	2.5%
(前回12月)	0.125%	0.125%	0.125%	2.5%

※GDP成長率、PCEデフレーター、コアPCEデフレーターは各年10-12月期の対前年比、失業率は10-12月期の平均値、FFレートは各年末ベース

出所:FRB

図表2 FOMC参加者のFF金利予測
(ドットチャート)



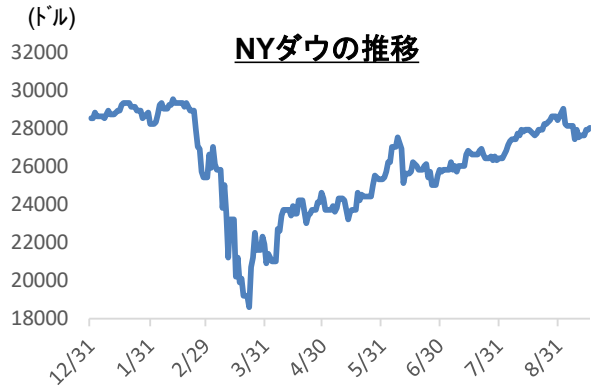
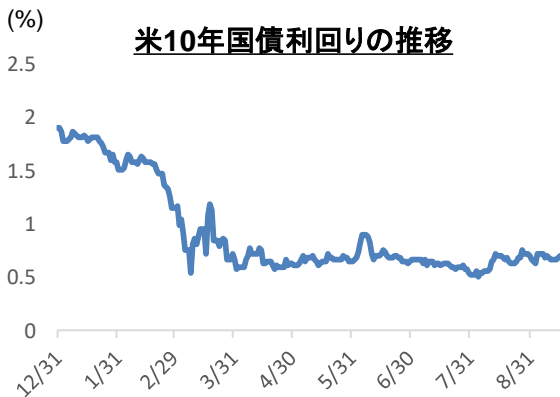
出所:FRBより弊社作成

市場の反応

昨夜の米国株式市場では、FOMCの声明文が好感され、NYダウの上げ幅が一時360ドルを超える上昇が見られましたが、その後は利益確定の売りなどもあり、前日比36.78ドル高の28,032.38ドルで終わりました。

米国債券市場では、ハト派的な内容だったものの、一部で資産購入の増額などへの期待があった可能性があり、イールドカーブは長期金利主導で上昇しました。

外国為替市場では、ドル指数は概ね横ばいとなりましたが、円相場は一時1ドル=104円台後半までドル安円高が進みました。



(期間)2019/12/31~2020/9/16、(出所)Bloomberg

評価及び今後の見通し

今回のFOMCは、フォワードガイダンスに関する文言修正があったものの、概ね市場の予想どおりのハト派な結果となりました。大半のメンバーが2023年までの政策金利の据え置きを予想したことや、米国債と住宅ローン担保証券の購入継続を再表明したことからも、当面は緩和的な政策が継続されると見られます。

今回のFOMCは、11月の大統領選挙及び議会選挙前では最後の会合となり、今後は大統領選挙及び議会選挙に加え、追加の財政政策に関する議会の協議への注目が高まると考えられます。

(ご参考)今後の主要イベント

	日本	米国	欧州
10月	28-29日:日銀金融政策決定会合		29日:ECB理事会
11月		3日:米国大統領選挙及び議会選挙 4-5日:FOMC	16日:ECB理事会

出所: Bloomberg